

青森県経済統計報告

令和3年4月28日

企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口（令和3年4月1日現在）…………… 1

県人口 1,219,435人（対前月5,599人減少）

自然動態 1,080人減少（出生者数 584人、死亡者数 1,664人）

社会動態 4,519人減少（転入者数 3,583人、転出者数 8,102人）

2 本県の経済動向（令和3年2月・3月の経済指標を中心として）

（1）経済概況

本県経済は、新型コロナウイルス感染症の影響から依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる。

なお、直近の景況感（青森県景気ウォッチャー調査・令和3年4月期）をみると、前期から大幅に改善したが、景気の横ばいを示す50を13期連続で下回った。

（2）主要経済指標の動向

- (2-1) 生産動向 ・令和3年2月の**青森県鉱工業生産指数**（平成27年＝100）は、季節調整済指数が104.3で、前月比0.4%の低下となり、3カ月ぶりで前月を下回った。また、原指数は93.2で、前年同月比0.5%の上昇となり、2カ月ぶりで前年同月を上回った。 … 2
- (2-2) 雇用労働 ・令和3年2月の**定期給与**は218,299円で前年同月比2.6%減となった。 … 3
・**総実労働時間**は141.4時間で前年同月比3.1%減、**所定外労働時間**は8.7時間で前年同月比9.3%減となった。
・令和3年2月の**有効求人倍率**（季節調整値）は0.89倍で、前月を0.07ポイント下回り、10カ月連続で1倍を下回った。※更新なし
- (2-3) 物 価 令和3年3月の**青森市消費者物価指数**（平成27年＝100）は、総合指数が102.7となり、前月比0.7%の上昇、前年同月比0.3%の上昇となった。また、生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は103.2となり、前月比0.4%の上昇、前年同月比0.8%の上昇となった。 … 5
- (2-4) 個人消費 ・令和3年2月の**百貨店・スーパー販売額**は、138億円で全店舗ベースが前年同月比1.3%減となり、2カ月ぶりに前年同月を下回った。また、既存店ベースでは前年同月比3.8%減となり、3カ月連続で前年同月を下回った。※更新なし … 6
・令和3年3月の軽乗用車を含めた**乗用車新車登録・届出数**は5,102台で、前年同月比1.0%増となり、2カ月ぶりに前年同月を上回った。
・令和3年3月の主な観光施設の**観光入込客数**は、40万人で前年同月比8.3%増となり、13カ月ぶりに前年同月を上回った。また、主な宿泊施設の**宿泊者数**は、12万2千人で前年同月比7.1%増となり、14カ月ぶりに前年同月を上回った。
- (2-5) 建 設 ・令和3年2月の**新設住宅着工戸数**は291戸で、前年同月比6.6%増となり、5カ月連続で前年同月を上回った。※更新なし … 8
・令和3年3月の**公共工事請負金額**は164億1,800万円で前年同月比117.2%増となり、5カ月ぶりに前年同月を上回った。
- (2-6) 企業倒産 令和3年3月の**企業倒産**は、件数は5件で前年同月比50.0%減となった。 … 8
負債総額は7億100万円で前年同月比76.3%減となった。

（3）景気動向指数C I（令和3年2月分）…………… 9

先行指数 121.8（前月を8.0ポイント上回り、2カ月ぶりに上昇した）

一致指数 64.6（前月を2.7ポイント下回り、2カ月連続で下降した）

遅行指数 95.5（前月を3.8ポイント下回り、3カ月ぶりに下降した）

（4）青森県景気ウォッチャー調査（令和3年4月期）…………… 10

3カ月前と比べた景気の現状判断D I … 42.4（前期比16.9ポイント増、13期連続で50を下回る）

3カ月後の景気の先行き判断D I … 51.3（現状判断D Iと比較して8.9ポイント増、50を上回る）

1 青森県の推計人口（令和3年4月1日現在）

【概況】

令和3年4月1日現在の本県推計人口は、1,219,435人で、前月に比べ5,599人の減少となった。

○自然動態

出生者数が584人、死亡者数が1,664人で、1,080人の減少となった。

○社会動態

転入者数が3,583人、転出者数が8,102人で、4,519人の減少となった。

総人口の推移

（単位：人）

	総数	男	女	対前月 増減率	増減数	自然 増減数	出生者数	死亡者数	社会 増減数	県外からの 転入者数	県外への 転出者数
昭 45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平 2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10.1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
27.10.1	1,308,265	614,694	693,571	-	-65,074	-	-	-	-	-	-
令 2. 4. 1	1,234,523	579,730	654,793	-0.489%	-6,064	-976	561	1,537	-5,088	3,634	8,722
令 2. 5. 1	1,234,393	579,791	654,602	-0.011%	-130	-856	624	1,480	726	3,211	2,485
令 2. 6. 1	1,233,585	579,411	654,174	-0.065%	-808	-819	563	1,382	11	915	904
令 2. 7. 1	1,232,681	578,939	653,742	-0.073%	-904	-790	631	1,421	-114	1,027	1,141
令 2. 8. 1	1,232,064	578,750	653,314	-0.050%	-617	-729	626	1,355	112	1,506	1,394
令 2. 9. 1	1,231,561	578,640	652,921	-0.041%	-503	-794	591	1,385	291	1,478	1,187
令 2. 10. 1	1,230,715	578,175	652,540	-0.069%	-846	-862	547	1,409	16	1,292	1,276
令 2. 11. 1	1,229,854	577,808	652,046	-0.070%	-861	-939	587	1,526	78	1,258	1,180
令 2. 12. 1	1,228,730	577,273	651,457	-0.091%	-1,124	-1,057	536	1,593	-67	926	993
令 3. 1. 1	1,227,653	576,763	650,890	-0.088%	-1,077	-1,054	513	1,567	-23	1,008	1,031
令 3. 2. 1	1,226,343	576,092	650,251	-0.107%	-1,310	-1,294	487	1,781	-16	1,027	1,043
令 3. 3. 1	1,225,034	575,390	649,644	-0.107%	-1,309	-1,084	453	1,537	-225	1,023	1,248
令 3. 4. 1	1,219,435	572,505	646,930	-0.457%	-5,599	-1,080	584	1,664	-4,519	3,583	8,102

3 月中の人口動態の推移

（単位：人）

	年月	H23.3	24.3	25.3	26.3	27.3	28.3	29.3	30.3	31.3	R2.3	3.3
自然 動態	出生者数	797	742	704	745	737	743	665	617	597	561	584
	死亡者数	1,579	1,498	1,501	1,475	1,461	1,483	1,565	1,620	1,462	1,537	1,664
	自然増減数	-782	-756	-797	-730	-724	-740	-900	-1,003	-865	-976	-1,080
社会 動態	県外からの 転入者数	2,887	3,822	3,440	3,923	3,806	3,828	3,993	3,686	3,410	3,634	3,583
	県外への 転出者数	5,920	8,691	9,110	9,050	9,159	9,102	9,339	9,367	9,183	8,722	8,102
	社会増減数	-3,033	-4,869	-5,670	-5,127	-5,353	-5,274	-5,346	-5,681	-5,773	-5,088	-4,519
	増減数計	-3,815	-5,625	-6,467	-5,857	-6,077	-6,014	-6,246	-6,684	-6,638	-6,064	-5,599

※ 1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年は国勢調査人口（確定値）。

※ 2 平成27年11月1日以降の人口は、平成27年国勢調査人口（確定値 総務省統計局 平成28年10月26日）を基礎に推計している。

※ 3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年が各々の前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※ 4 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

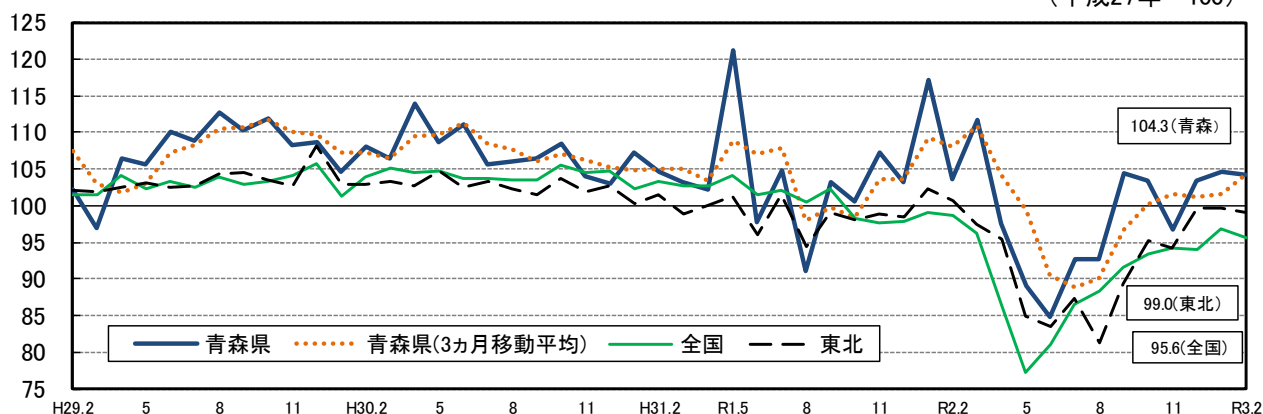
(2-1) 生産動向

令和3年2月の青森県鉱工業生産指数(平成27年=100)は、季節調整済指数が104.3で、前月比0.4%の低下となり、3か月ぶり前月を下回った。また、原指数は93.2で、前年同月比0.5%の上昇となり、2か月ぶり前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、電子部品・デバイス工業、金属製品工業、非鉄金属工業等が上昇に寄与した一方、化学工業、生産用機械工業、石油・石炭製品工業等が低下し、鉱工業全体では0.4%の低下となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)

(平成27年=100)



◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体

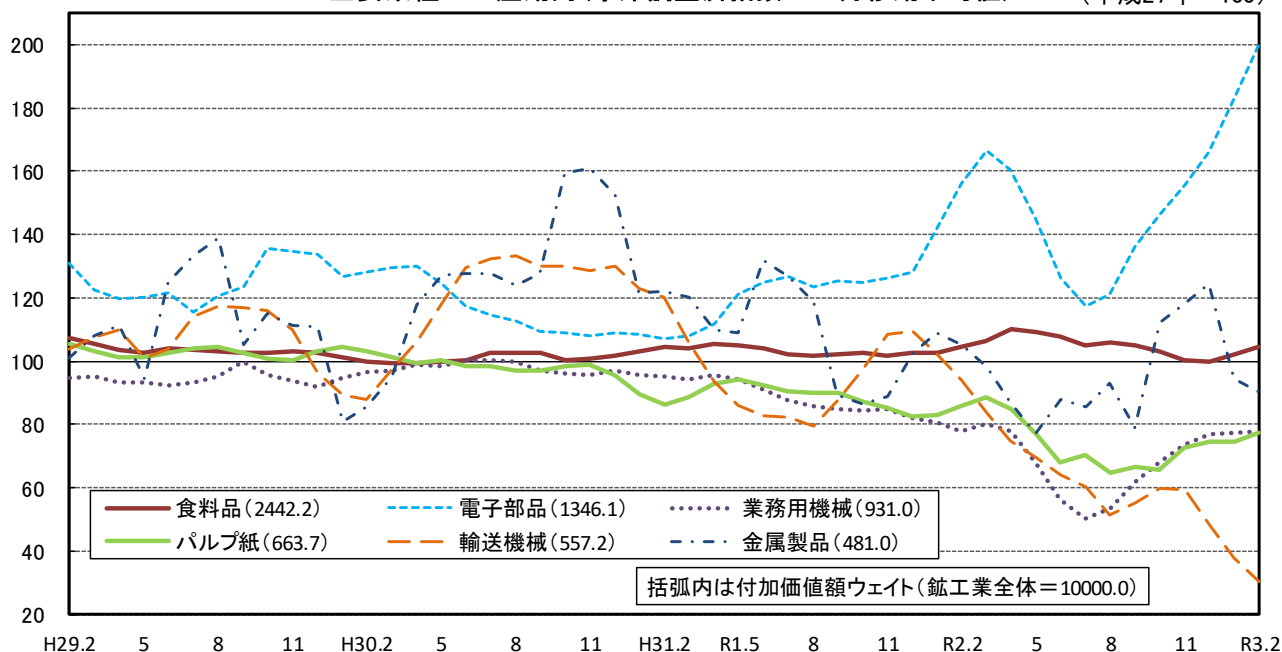
-0.4%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
電子部品・デバイス工業	8.4	130.6	化学工業	-19.6	-64.8
金属製品工業	35.3	66.9	生産用機械工業	-35.6	-55.1
非鉄金属工業	11.3	24.8	石油・石炭製品工業	-37.9	-25.9
パルプ・紙・紙加工品工業	7.4	21.5	繊維工業	-14.9	-24.1
窯業・土石製品工業	9.6	16.0	食料品工業	-1.1	-16.9

※寄与率とは、総合指数の上昇(低下)に対する、業種ごとの影響度を構成比で示したものであり、ポイント差とウエイトとの総合的な大きさで決まる。

主要業種の生産動向(季節調整済指数・3カ月移動平均値)

(平成27年=100)



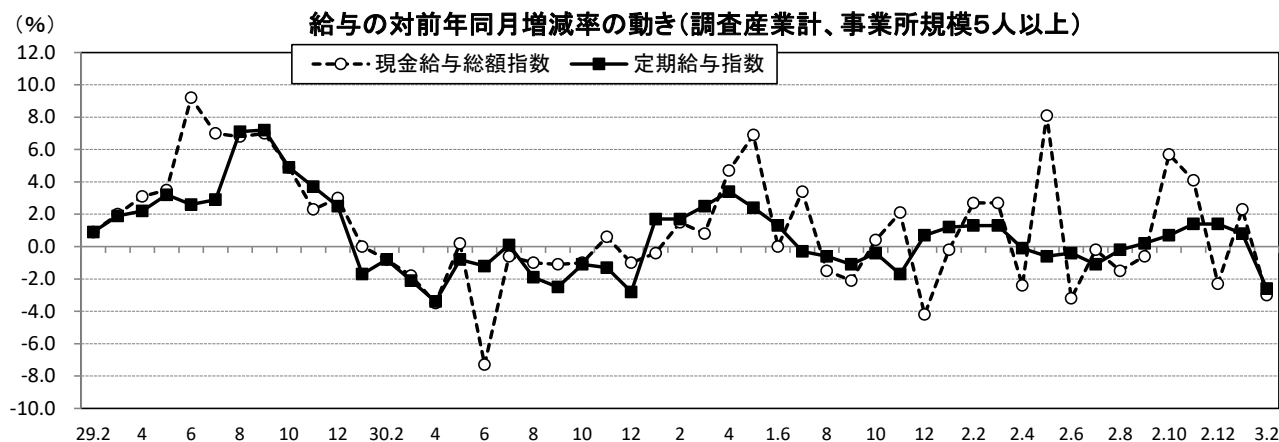
資料: 県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2) 雇用労働

(2-2-1) 給与・労働時間（毎月勤労統計調査結果）

令和3年2月の定期給与は218,299円で、定期給与指数（平成27年＝100）では101.0となり、前年同月比2.6%減と6カ月ぶりの減（現金給与総額221,628円、現金給与総額指数88.4、前年同月比3.0%減）となった。また、実額で比較した定期給与の全国対比は83.4となった。

総実労働時間は141.4時間で、総実労働時間指数は91.5となり、前年同月比3.1%減と2カ月ぶりの減となった。このうち、所定外労働時間は8.7時間で、所定外労働時間指数は75.7となり、前年同月比9.3%減と3カ月ぶりの減となった。



資料: 県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

給与及び労働時間の全国との比較(調査産業計、事業所規模5人以上)

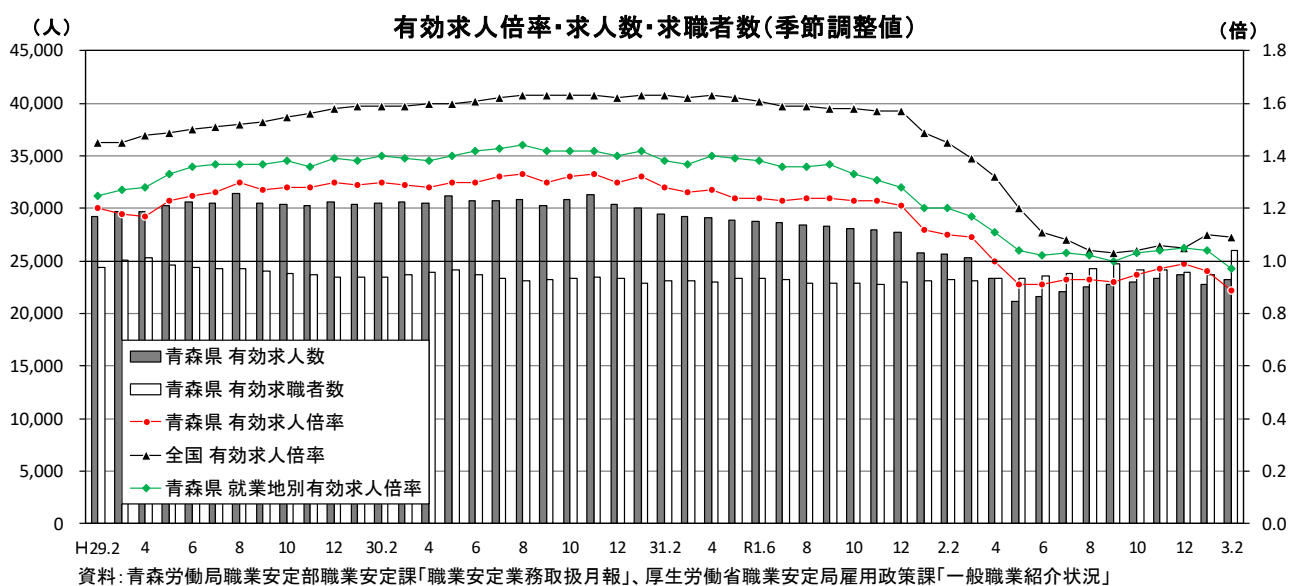
	実 数		指数(H27=100)		対前年同月増減率	
	青森県	全 国	青森県	全 国	青森県	全 国
現金給与総額	221,628 円	265,972 円	88.4	84.3	-3.0	-0.2 %
定期給与	218,299 円	261,632 円	101.0	100.4	-2.6	-0.3 %
特別給与	3,329 円	4,340 円	—	—	—	-1.0 %
総実労働時間	141.4 時間	131.0 時間	91.5	90.7	-3.1 %	-3.4 %
所定内労働時間	132.7 時間	121.7 時間	92.7	91.2	-2.7 %	-2.9 %
所定外労働時間	8.7 時間	9.3 時間	75.7	84.5	-9.3 %	-9.7 %

- (注) 1. 「定期給与」とは、あらかじめ定められている支給条件、算定方法によって支給される給与のことで、超過労働給与（所定の労働時間をこえる労働、休日労働、深夜労働に対して支給される給与）を含みます。
2. 「特別給与」とは、給与の差額追給額（ベースアップ分）、3か月をこえる期間単位で支給される住宅手当や通勤手当、賞与（ボーナス）等のことです。
3. 「所定内労働時間」とは、正規の始業時刻と終業時刻との間から休憩時間を差し引いた労働時間のことです。
4. 「所定外労働時間」とは、早出、残業、休日出勤等の労働時間のことです。
5. 全国の数値については、平成30年11月確報から、平成24年以降において東京都の「500人以上規模の事業所」についても再集計した値（再集計値）に変更しており、従来の公表値とは接続しないことにご注意ください。また令和元年6月分速報から「500人以上規模の事業所」について全数調査による値に変更していることにご注意ください。

資料: 県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

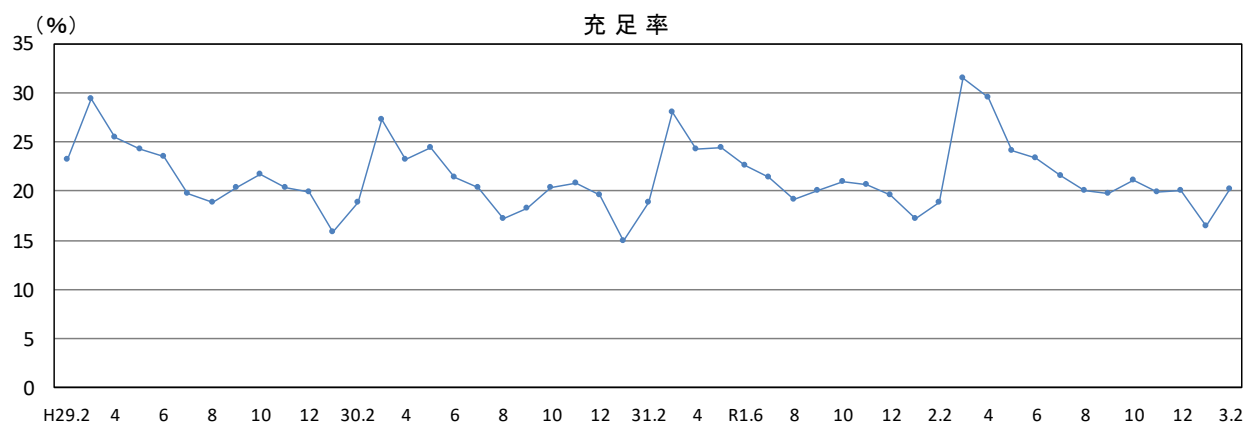
（２－２－２）有効求人倍率 ※更新なし

令和３年２月の有効求人倍率（季節調整値）は0.89倍で、前月を0.07ポイント下回り、10カ月連続で1倍を下回った。就業地別有効求人倍率は0.97倍で、前月を0.07ポイント下回った。



（参考）充足率（新規学卒者を除きパートタイムを含む）

令和３年２月の充足率は20.3%で、前年同月を1.5ポイント上回った。



(2-3) 物価

令和3年3月の青森市消費者物価指数(平成27年=100)は、総合指数が102.7となり、前月と比べ0.7%の上昇、前年同月と比べ0.3%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は103.0となり、前月と比べ0.8%の上昇、前年同月と比べ0.4%の上昇となった。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は103.2となり、前月と比べ0.4%の上昇、前年同月と比べ0.8%の上昇となった。

総合指数が前月と比べ0.7%の上昇となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道、住居などの上昇が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ0.3%の上昇となった内訳を寄与度でみると、住居、家具・家事用品などの上昇が要因となっている。

図1 総合指数の動き

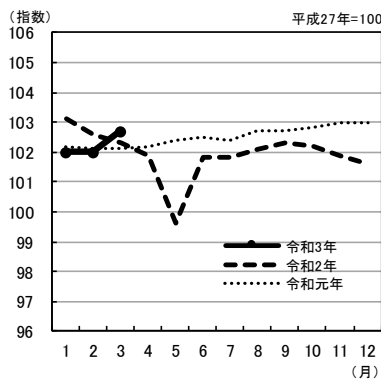


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

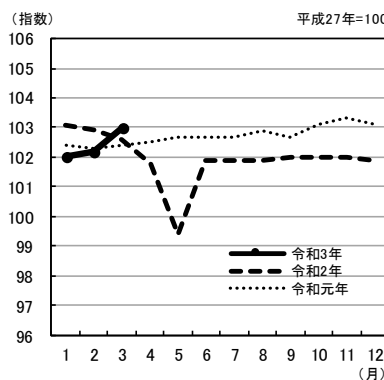
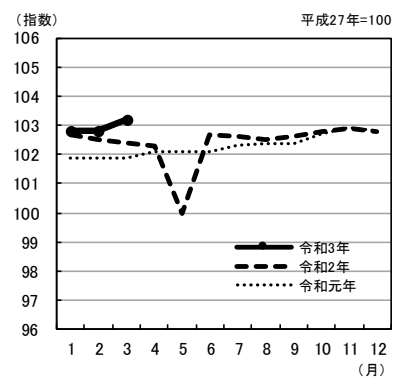


図3 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成27年=100)

	総 合	生鮮食品 を除く総合	生鮮食品及 びエネルギー を除く総合	食料(酒類を 除く)及びエネ ルギーを除く 総合	食 料	生 食	鮮 品	住 居	光 熱 ・ 水 道	家 具 ・ 家事用品	被 服 ・ 履物	保 健 ・ 医療	交 通 ・ 通信	教 育	教 養 ・ 娯楽	諸 雑 費
当月指数	102.7	103.0	103.2	101.6	106.2	97.0	102.8	100.4	107.3	102.3	101.4	98.7	95.2	103.6	99.2	
前月比 (%)	0.7	0.8	0.4	0.5	▲ 0.1	▲ 1.3	0.8	2.1	2.1	1.0	▲ 0.1	1.1	0.0	0.3	0.1	
寄与度	—	0.73	0.35	0.30	▲ 0.01	▲ 0.06	0.17	0.23	0.09	0.03	0.00	0.14	0.00	0.03	0.00	
前年 同月比 (%)	0.3	0.4	0.8	0.7	0.9	▲ 0.6	1.5	▲ 3.2	5.7	▲ 0.4	▲ 0.9	▲ 0.5	▲ 3.2	▲ 0.2	1.9	
寄与度	—	0.35	0.68	0.42	0.24	▲ 0.03	0.30	▲ 0.36	0.24	▲ 0.01	▲ 0.03	▲ 0.06	▲ 0.08	▲ 0.02	0.11	

資料:県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

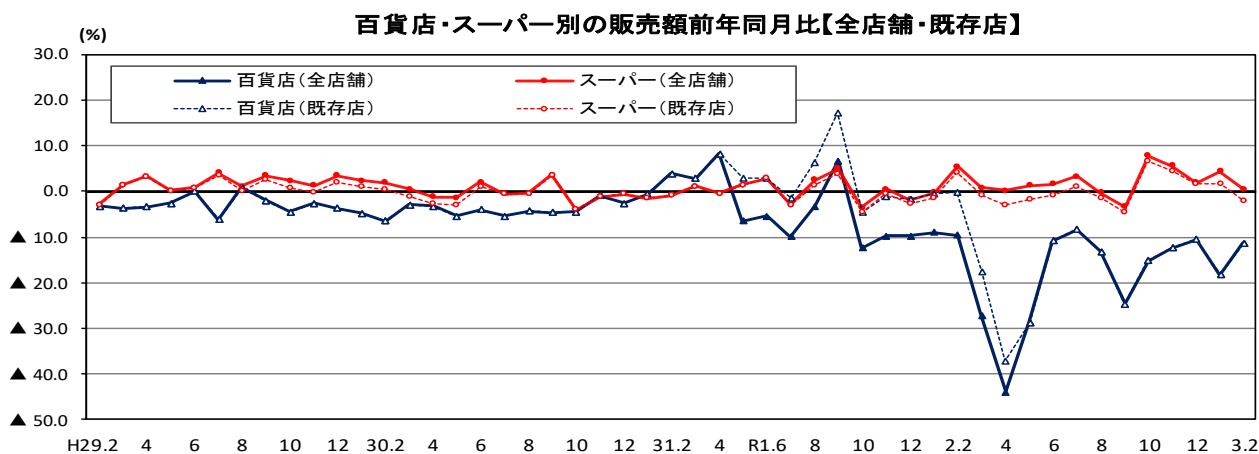
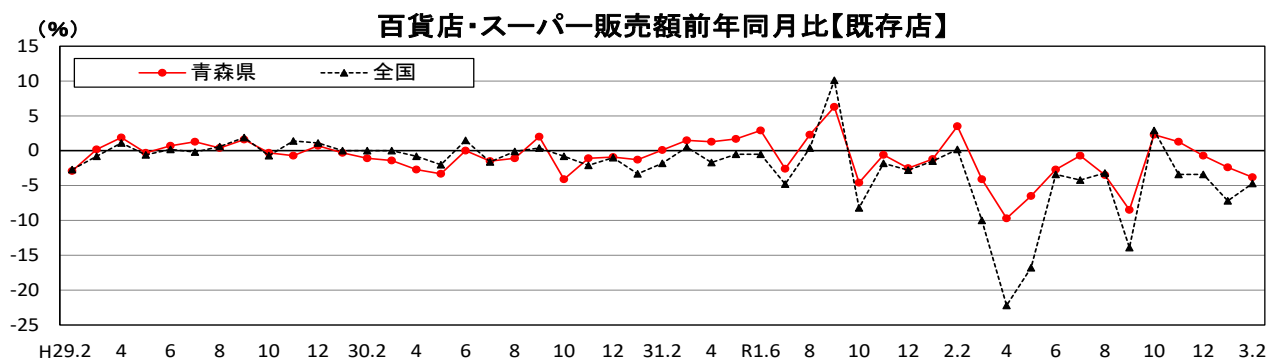
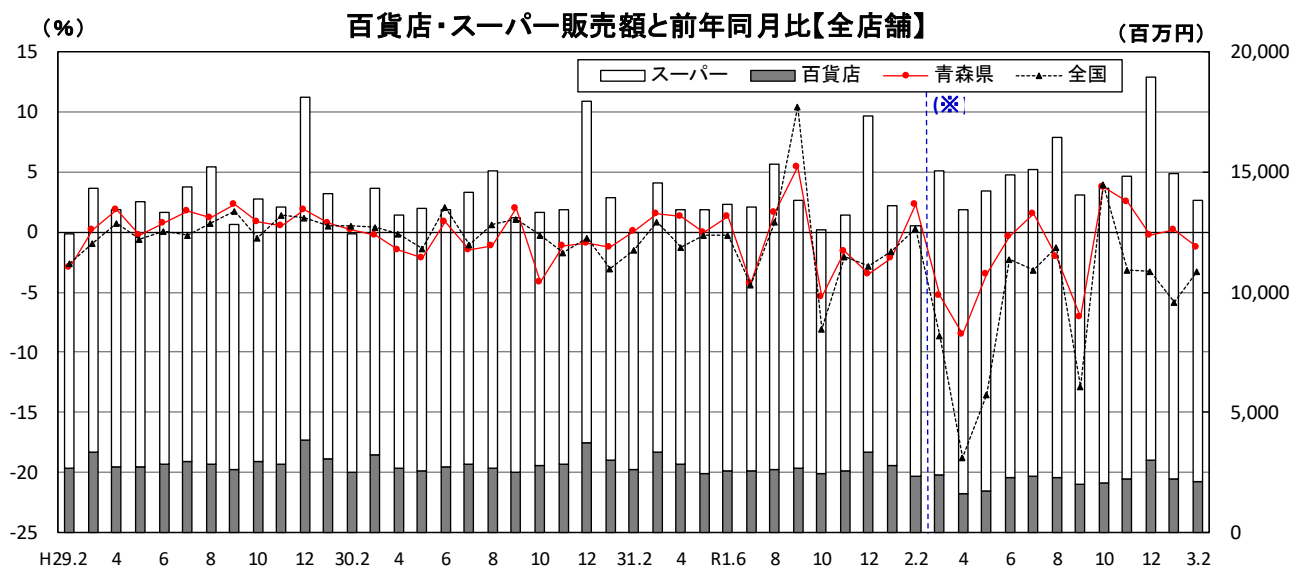
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

(2-4) 個人消費

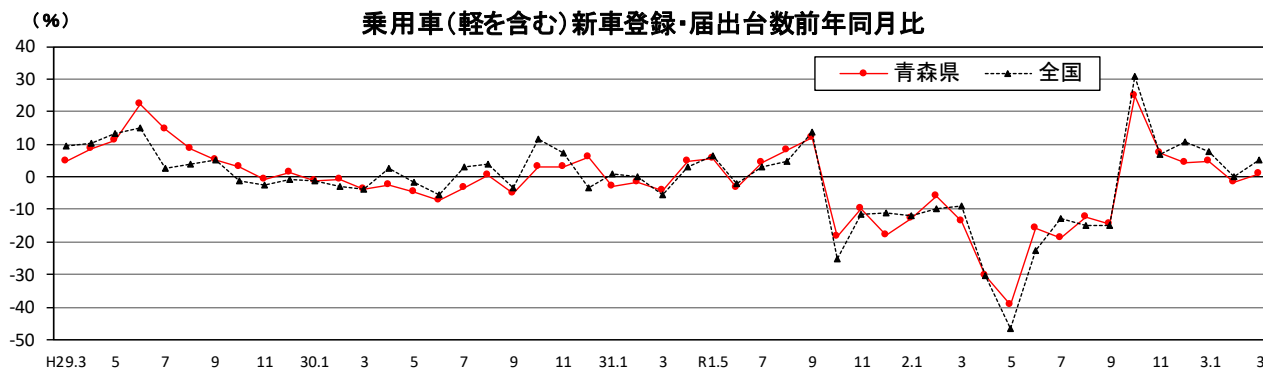
(2-4-1) 百貨店・スーパー販売額 ※更新なし

令和3年2月の百貨店・スーパー販売額は、138億円で全店舗ベースが前年同月比1.3%減となり、2カ月ぶりに前年同月を下回った。また、既存店ベースでは前年同月比3.8%減となり、3カ月連続で前年同月を下回った。



(2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

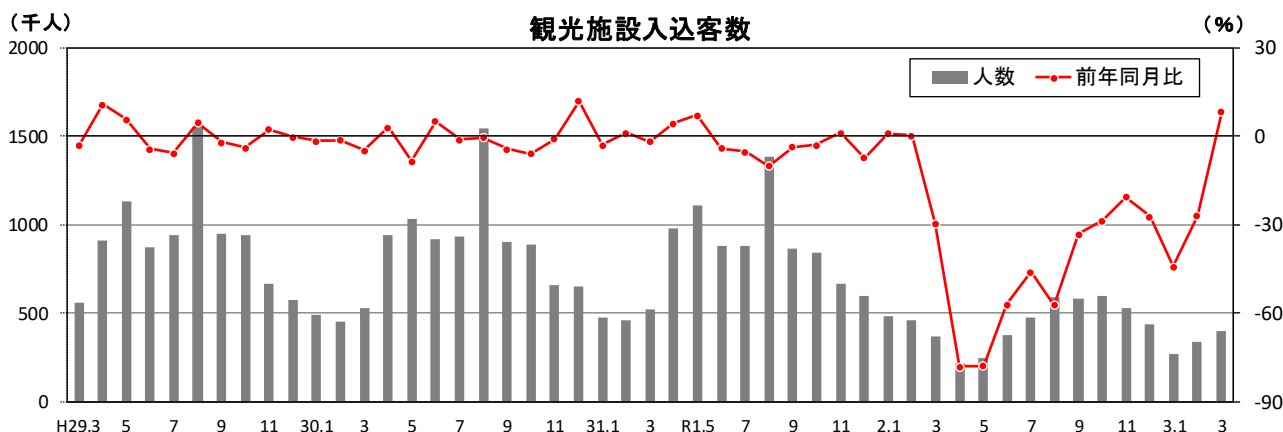
令和3年3月の軽乗用車を含めた乗用車新車登録・届出台数は5,102台で、前年同月比1.0%増となり、2カ月ぶりに前年同月を上回った。普通車と軽乗用車が増加したことによる。



資料: 日本自動車販売協会連合会青森県支部「自動車登録状況 新車月報」、同連合会「自動車統計データ」

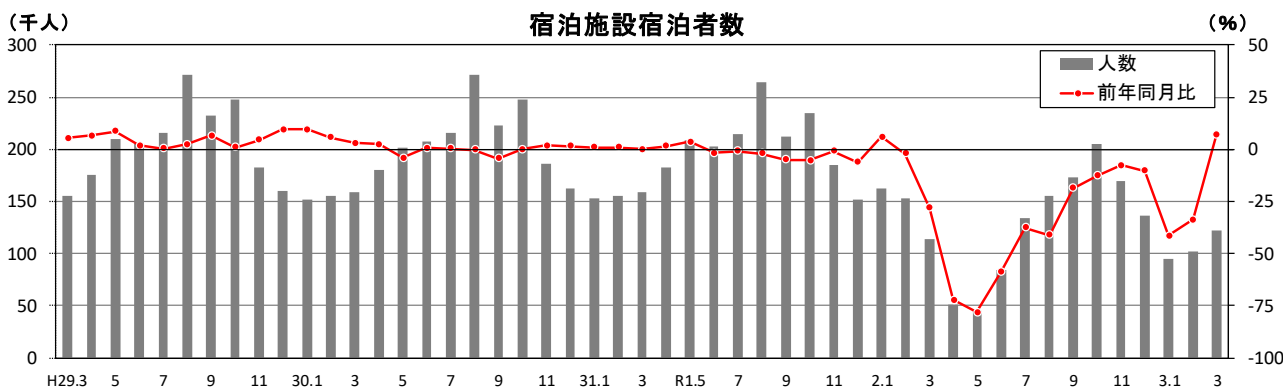
(2-4-3) 観光入込客数・宿泊者数

令和3年3月の主な観光施設の観光入込客数は、40万人で前年同月比8.3%増(前々年同月比23.5%減)となり、13カ月ぶりに前年同月を上回った。また、主な宿泊施設の宿泊者数は、12万2千人で前年同月比7.1%増(前々年同月比25.8%減)となり、14カ月ぶりに前年同月を上回ったものの、いずれも前々年同月の8割程度の水準にとどまっている。



資料: 県観光企画課「月例観光統計」

※観光施設35施設(H24年1月～H26年3月は35施設、H26年4月～H28年12月は34施設、H29年1月以降は35施設対比)



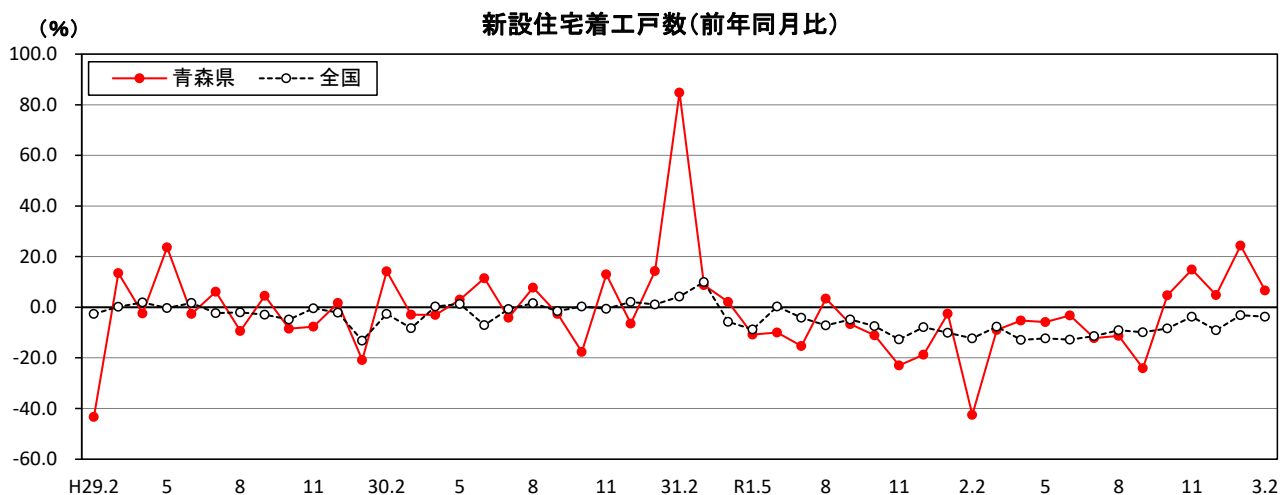
資料: 県観光企画課「月例観光統計」

※宿泊施設 全県75施設(H30年6月まで79施設、H30年7月は78施設、H30年8月～R1年5月は79施設、R1年6月～7月は80施設、R1年9月～R2年3月は78施設、R2年4月～5月は77施設、R2年6月～10月は以降は76施設、R2年11月からは75施設対比)

(2-5) 建設

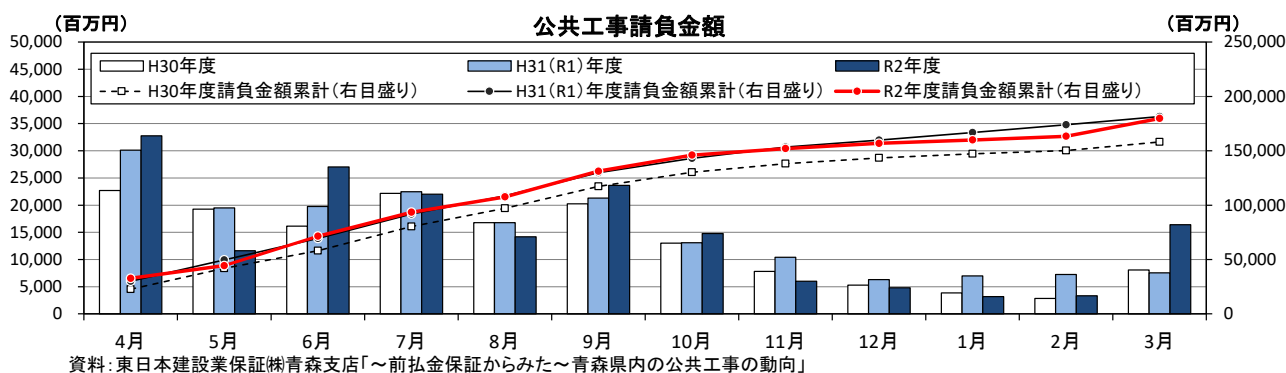
(2-5-1) 住宅建設 ※更新なし

令和3年2月の新設住宅着工戸数は291戸で、前年同月比6.6%増となり、5カ月連続で前年同月を上回った。主に給与住宅、分譲住宅が増加したことによる。



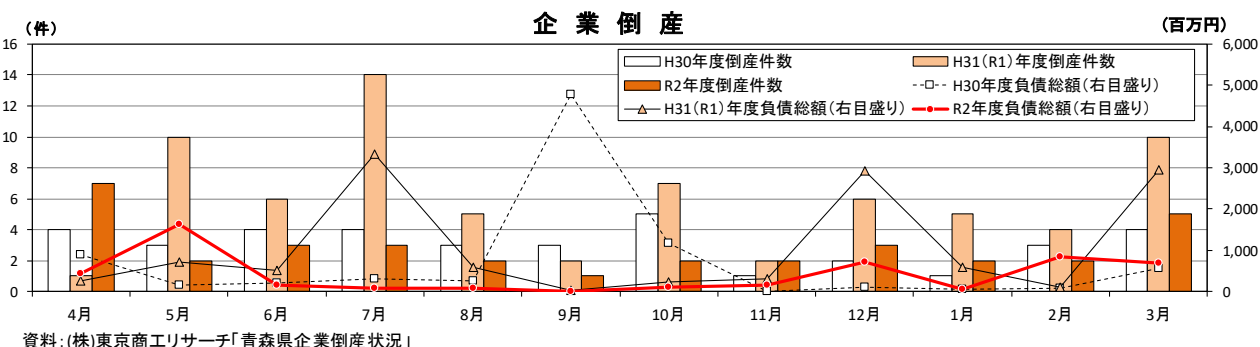
(2-5-2) 公共事業

令和3年3月の公共工事請負金額は164億1,800万円で前年同月比117.2%増となり、国が大きく増加したことにより5カ月ぶりに前年同月を上回った。また、令和3年3月までの累計金額は1,797億5,000万円で前年同期比1.0%減となった。



(2-6) 企業倒産

令和3年3月の企業倒産は、件数は5件で前年同月比50.0%減となった。負債総額は7億100万円で前年同月比76.3%減となった。また、令和3年3月までの累計倒産件数は34件で前年同期比52.8%減、負債総額は50億300万円で前年同期比60.3%減となった。



(3) 青森県景気動向指数

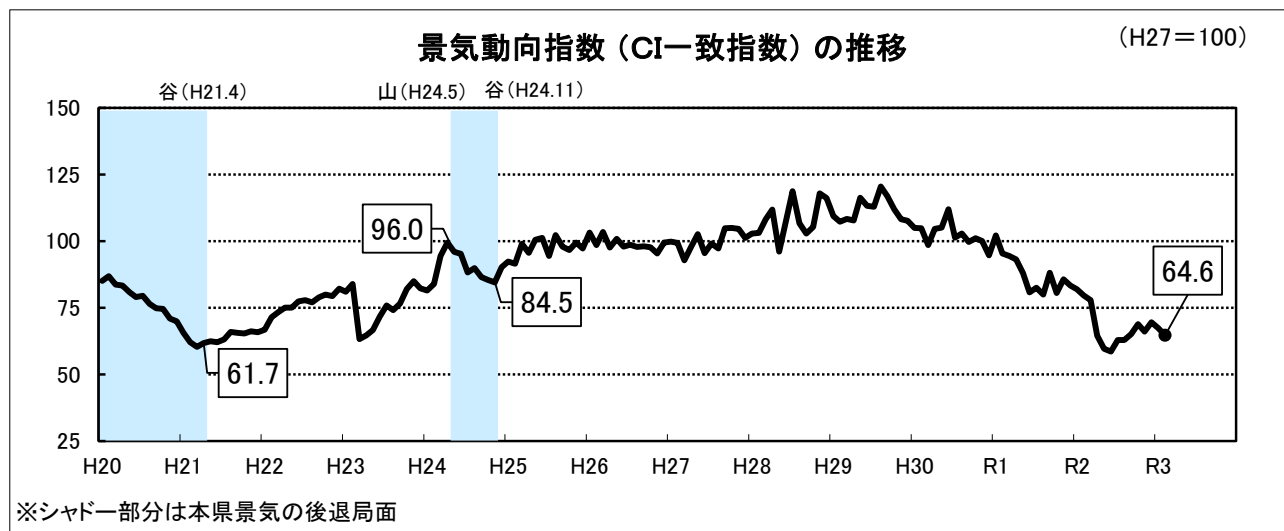
令和3年2月の青森県景気動向指数（C I）は、先行指数 121.8、一致指数 64.6、遅行指数 95.5 となった。

先行指数は、前月を 8.0 ポイント上回り、2 カ月ぶりに上昇した。

一致指数は、前月を 2.7 ポイント下回り、2 カ月連続で下降した。

遅行指数は、前月を 3.8 ポイント下回り、3 カ月ぶりに下降した。

2 月の一致指数は、雇用、消費関連の指標がマイナスになったことから下降した。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

●個別モノの動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較して示す）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先行系列					
日経商品指数（42種）	4.63	5カ月連続	新設住宅着工床面積	-2.84	2カ月ぶり
建築着工床面積	3.71	5カ月連続	乗用車新車登録届出台数	-1.73	2カ月ぶり
新規求人倍率（全数）	2.30	2カ月ぶり	生産財生産指数	-0.14	2カ月連続
中小企業景況D I	1.71	2カ月ぶり			
企業倒産件数（逆サイクル）	0.58	2カ月ぶり			
一致系列					
輸入通関実績（八戸港）	1.05	2カ月ぶり	有効求人倍率（全数）	-1.73	2カ月連続
投資財生産指数	0.24	2カ月ぶり	所定外労働時間指数（全産業）	-1.60	6カ月ぶり
			百貨店・スーパー販売額（既存店）	-0.34	4カ月連続
			旅行取扱高	-0.23	4カ月連続
			鉱工業生産指数	-0.08	3カ月ぶり
遅行系列					
県内金融機関貸出残高	1.33	4カ月ぶり	有効求職者数（全数）（逆サイクル）	-2.77	5カ月ぶり
青森市消費者物価指数（総合）	1.13	2カ月連続	りんご消費地市場価格	-1.54	2カ月連続
公共工事請負金額	0.01	2カ月ぶり	家計消費支出（勤労者世帯：実質）	-0.88	2カ月連続
			常用雇用指数（全産業）	-0.85	3カ月ぶり

（参考）青森県景気動向指数（D I）

先行指数 87.5% （7 カ月連続で50%を上回った）

一致指数 42.9% （6 カ月ぶりに50%を下回った）

遅行指数 28.6% （4 カ月連続で50%を下回った）

(4) 青森県景気ウォッチャー調査（令和3年4月期）

現状判断DIは、Go To トラベル事業の停止や年末年始の忘新年会自粛によって収入が減少した前期と比べて、人や商品の動きが出てきたことを受け、前期比16.9ポイントの大幅な増加となる42.4となったが、一方で、クラスターの発生による客数の減少を挙げる声もあった。

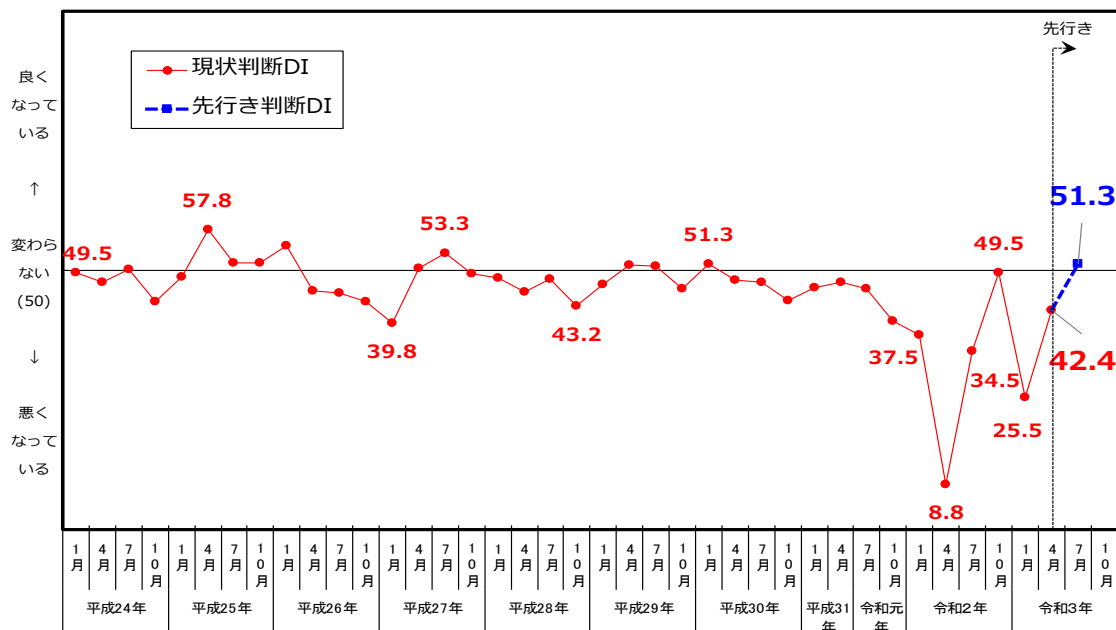
先行き判断DIは、ワクチン接種による不安解消効果、祭りやイベント等開催による人出の増加への期待感などから、現状判断DIと比較して8.9ポイント増加の51.3となったが、ワクチン接種が行き渡るまでの不安感や、首都圏や関西でのまん延防止等重点措置への懸念を挙げる声もあった。

3カ月前と比べた景気現状判断DIは、景気の横ばいを示す50を13期連続で下回った。

3カ月後の景気の先行き判断DIは、景気の横ばいを示す50を8期ぶりに上回った。

（調査期間 令和3年4月1日～4月20日 回答率 99%）

景気現状判断DIの推移・今後の先行き判断DI



● 3カ月前と比べた景気現状判断

動

前期調査と比べると、「良くなっている」が1.0ポイントの増加、「やや良くなっている」が15.1ポイントの増加、「変わらない」が12.1ポイントの増加、「やや悪くなっている」が6.0ポイントの減少、「悪くなっている」が22.3ポイントの減少となった。全体では42.4となり、前期から16.9ポイントの大幅な増加となったが、景気の横ばいを示す50を13期連続で下回った。

向

判断理由では、これまで鈍かった人や商品の動きが出てきたこと、我慢していた事業計画を実行しようと動き出しているといった声がある一方で、景気が悪いまま変わらない、クラスターの発生によって客数が減少したなどの声が挙げられた。また、業種によって景気の良し悪しが分かれているといった声もあった。

地区別では、前期調査と比べて、全地区でポイントが増加したが、いずれも景気の横ばいを示す50を下回っている。

● 3カ月後の景気の先行き判断

動

今期調査の現状判断DIと比べると、「良くなる」が増減なし、「やや良くなる」が13.1ポイントの増加、「変わらない」が1.0ポイントの増加、「やや悪くなる」が6.1ポイントの減少、「悪くなる」が8.0ポイントの減少となった。全体では、今期調査の現状判断DIと比べて8.9ポイント増加の51.3となり、景気の横ばいを示す50を上回った。

向

判断理由では、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種による不安解消効果、祭りやイベント等開催による人出の増加への期待感を挙げる声が多かった一方で、ワクチン接種が行き渡るまでの不安感や、首都圏や関西でのまん延防止等重点措置の発令による先行きの不透明感を挙げる声があった。

地区別では、今期調査の現状判断DIと比べて、全地区でポイントが増加した。

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

(3) 判断理由

○3カ月前と比べた景気の現状判断理由

◎	これまで動きの鈍かった高額品の動きが目立つようになっています。(百貨店=東青)
○	コロナの影響で冷え込んだ昨年に比べると、我慢していた計画を今年は実行しようと動き出しているのではないかと。(設計事務所=津軽)
○	3カ月前と比べてやや良くなっているだけで、景気そのものはあいかわらず良くはない。(商店街=津軽)
○	ウイルスに対する予防対策を知り、世の中の動きが少しずつ見えてきたのが気を付けられれば外出しても良いかなという気持ちに変わってきた結果かもしれません。(旅行代理店=県南)
□	新型コロナウイルス感染の収束がみられず、社会、経済も一進一退を繰り返している状況が続いている。(新聞社求人広告=東青)
□	相変わらずのコロナ禍騒動で、落ち着きそうになれば新たに陽性者が出て緊張の環境になり、各々が自粛ムードになり結果商売が傷になる。その繰り返しで、先があまりにも見えない。(一般飲食店=県南)
□	緊急事態宣言中でしたので規制がある中での景気と解除されたといえど感染を心配して歩かない為悪いまま推移している。(卸売業=県南)
□	急遽の人員不足などはあるが、人員削減が多く新しい求人が発生していない。(人材派遣=東青)
□	三ヶ月前の緊急事態宣言下に比べると解除後の今は少し行動範囲が広がっているようだが、外出自粛傾向も変わらず第四波到来への怯えがあるように思える。(美容院=津軽)
□	大手スーパー関係はわりと良いようです。零細企業は厳しすぎます。(食料品製造=東青)
△	コロナウイルスによるクラスターが発生し、年配層を中心に外出を控えている印象。(スーパー=東青)
△	前年度にコロナの感染症が出た頃で、そのまま景気が悪化。その景気は、かわらず悪いが続いている。(コンビニ=津軽)
△	引き続き、市内、県内でもコロナが発生しており、各種イベントが相次いで中止となっているため。(住宅建設販売=県南)
×	市内からコロナが出るとキャンセルに！！(レストラン=東青)
×	県内でのコロナクラスター頻発。(衣料専門店=県南)

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

○3カ月後の景気の先行き判断理由

◎	現状でも、例年比7～8割(宿泊部門)であり、観光需要が戻る可能性が徐々に高まり、県外ビジネス利用も増加していくと思われる。直近の状況はクラスターやリバウンドで思わしくないが。(都市型ホテル=東青)
○	お祭りの再開等、コロナ禍での行事、催事が上手に行われると景気も上がってくると思う。(卸売業=東青)
○	R2.12月～R3.2月迄、コロナ緊急事態で最悪だった頃よりは良い。又、昨年の3月以降より悪い事は考えられない。(食料品製造=下北)
○	さくらまつりなど大きなイベント開催により、景気はやや良くなると思う。ただし、新型コロナウイルス感染防止対策の甘すぎる内容に、これでいいのかとかなり不安である。(商店街=津軽)
○	コロナのワクチン接種効果による不安解消効果を期待している。(乗用車販売=津軽)
○	コロナのワクチン接種により、感染が減って来ると活動活性化されて来ると期待しています。(美容院=県南)
□	新型コロナの感染状況が極端に悪化しなければという前提つきで。(百貨店=県南)
□	この先ワクチン接種が全体にいきわたり、効果が出るまでは、現状変わらないと思う。(一般小売店=下北)
□	青森県もコロナ感染者数が増えてますから深刻な状況です。お知り合いのお店も閉店が多く寂しいです。明日は我が身です。(スナック=東青)
□	悪いのは変わらないと思う。ワクチンもまだまだ接種困難なようだし、陽性者もまだまだ増加傾向にあるようだし、先行きがどうなるか分からない現状のようだ。(一般飲食店=県南)
□	首都圏や関西の蔓延防止やワクチンの状況が不透明だから。(商店街=県南)
□	一般高齢者等へのワクチン接種が進んで行けば、人の流れは出てくるだろうが、県をまたいでの移動はまだ難しいだろう。(経営コンサルタント=津軽)
△	昨年に比べ客数が1割ほど少なくなっており、外出を控える傾向が見られるため。(家電量販店=東青)
△	コロナ感染症の拡大が東北そして県内にも拡がりを見せている状況を考えると、宴会、会合等、自粛せざるを得ず、良くなる材料に乏しい。(ガソリンスタンド=県南)
△	大都市圏でまん延防止等重点措置が発令。地方にも広がる可能性があります。(スーパー=東青)
×	ワクチン等感染防止対策が一般市民に行き渡るまで宿泊業は補助等に頼らなければ厳しい状況です。現在では企業の体力勝負に任せており、休業業が本格化するのはいずれからかもしれません。(観光型ホテル・旅館=東青)

記号の意味：◎良くなる、○やや良くなる、□変わらない、△やや悪くなる、×悪くなる

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」